

絶滅危機のアカウミガメから環境問題を探る

コース・専攻：生活環境コース 30期

グループ名：「ウミガメ物語」 タートルセブン

メンバー：石田美保子、池田充志、川口年秋、岸本一二三、二星隆巳、松浦千恵子、山本美代子

1. テーマ選定の理由

私たちメンバー7人が子供の頃（昭和30年代）の瀬戸内海は自然豊かで、タイ、タコ、アナゴ等が豊漁、海苔が良く育ち、牡蠣も身がふっくらして、比較的安価で購入できました。また、私たちが住む神戸のお隣、明石市内の海岸ではアカウミガメが産卵のために上陸し、子供たちの人気者になっていました。あれから60年以上の月日が流れた現在、魚介類は不漁、海苔は色落ち、アカウミガメは10年以上も産卵・上陸（明石市の海岸）が確認されていません。この60年間の環境変化を絶滅危機にあるアカウミガメから探る事にしました。

2. 学習内容

まずは、現状把握のため、各種文献やインターネットから情報収集、その後、神戸市環境局及び明石市環境局を訪問し聞き取り調査をしました。フィールドワークではウミガメの産卵時期である7月に明石市内の海岸と徳島県美波町「日和佐大浜海岸」での産卵・上陸の有無の確認やウミガメ保護の取り組み状況の現地調査をしました。また、日本で唯一の「日和佐うみがめ博物館」を見学しました。世界には7種類しかウミガメがいない事や、アカウミガメの産卵場所が北太平洋では唯一、日本だけ等、驚かされる事が沢山ありました。また、アカウミガメの絶滅危機の原因については①産卵に適した砂浜の減少②漁業による偶発的捕獲③砂浜を照らす灯り④海洋汚染(プラゴミ等)⑤地球温暖化の影響など、複合的な原因である事がわかりました。ウミガメ保護の取り組みについては、力を入れている都道府県や市町村の中には独自にウミガメ保護条例を定めているところがありました。

3. まとめ

この60年間でウミガメにとって、その取り巻く環境は大きく変わりました。地球温暖化による海水温上昇や海流変化、ウミガメの産卵に適した砂浜の減少、プラゴミ等の海洋汚染など、全て人間が関わっています。人間が便利を求める事により、ウミガメにとっては深刻な状況になっています。

私たちに出来ること……まずは意識して情報を集める事が大事です。ウミガメがどんな生態なのか、またどうして個体数が減少しているのか、まずは知ることがとても大切です。そして周りの人たちにもウミガメの事を伝える。ウミガメを取り巻く環境は色々あるので、たくさんの仲間が集まれば、その人の仕事や特技を活かしてできる事は人によって色々あるかと思います。それぞれの人がウミガメが直面している問題を知って、自分で何が出来るか考え、そしてアクションを起こす事が大事です。

